

～日韓の懸け橋「李秀賢さん」～

下関市総合政策部国際課  
(釜山広域市派遣職員)  
渡邊 繁

アンニョンハセヨ！

みなさんは、李秀賢（イ・スヒョン）さんをご存じでしょうか？

平成13年（2001年）1月26日、韓国人留学生の李秀賢さんとカメラマンの関根史郎さんが、JR山手線の新大久保駅ホームから転落した日本人男性を助けようと線路に降り、3人とも電車にはねられて亡くなりました。自らの命を顧みず、他人の命を救おうとしたお二人の勇気ある行動は、当時日本でも報道され、韓国では志半ば命を落とした李秀賢さんのことが特に大きく報道されたそうです。李さんは小中高校時代を釜山市で過ごし、ソウル市の高麗大に進学します。日本語を学んでいた李さんは、日韓の貿易に興味を抱き「将来は両国の懸け橋」になりたいと休学し、2000年から日本に留学し、26歳という若さで亡くなりました。当時、ニュースを見た記憶がありましたが、あれから20年が経ち、私は釜山に赴任して、初めて李さんが釜山出身ということを知りました。

今年の1月には、釜山市役所において、「義人・李秀賢展示会」が開催され、李さんの幼少期から日本での留學生活の写真数十枚のほか、日韓両政府からの感謝状や勲章、日韓の市民からの勇気ある行動をたたえる手紙も展示されました。また、命日である1月26日には、釜山と東京で毎年追悼行事が行われています。

李さんのご両親は、事故の翌年に寄せられた見舞い金や弔慰金を基に奨学金制度をつくりました。日本での李さんの勇気ある行動を語り継ぐ一方、母国と日本の懸け橋になろうと韓国の日本語学校で学ぶアジア各国からの語学留学生に対し、これまで約1000人への経済的支援を行ったそうです。

釜山韓日文化交流協会においては、李さんの志を受け継ぎ、「美しき青年李秀賢モイム(略称:アイモ)」を結成し、未来を背負う韓国と日本の青年たちに交流の場を積極的に提供しています。李秀賢さんの志はこのような形で日韓の懸け橋となり生き続けています。

また、同協会では、李さんの20周年にあたり、評伝『李秀賢、1月の陽光』を出版しています。

さらに、釜山には市内各地に李さんの足跡をたどれる場所があります。釜山市金井区の永楽公園には、李さんのお墓があり、誰でもお参りができるようになっています。西面からバスで20分ほどのところにあるオリニ大公園内には、李さんの慰霊碑もあります。

現在はコロナウイルスの感染症拡大により、日韓の交流事業も難しい状況がありますが、李さんが眠られているこの釜山の地で、私も日韓の懸け橋の一助となれるよう努めてまいります。



「義人・李秀賢展示会」